



令和4年度

黒石高校 情報デザイン科 実践成果報告

～「地域連携」をキーワードに～

無断転載禁止

【報告内容】

- I 黒石市立図書館との連携事業（連携団体：黒石市教育委員会）
- II 青森をアートでたどるプロジェクト（主催：青森県、企画制作：エヌ・アンド・エー株式会社、原高史氏 等）
- III 子育て広場「ま～な」キャラクターの制作協力（連携団体：黒石市子育て支援連絡協議会、事務局：中郷こども園）
- IV 高校生と考える中南地域ビジネス創出事業 「バズる商品開発」（連携団体：中南県民局地域連携部）
- V 黒石市議会議員一般選挙にかかる PR ポスターの制作（連携団体：黒石市選挙管理委員会）

資料／第1回青森県立黒石高等学校情報デザイン科展「成功した暁には目を入れよう」

1 概 要

本事業は、長年にわたって検討がなされてきた黒石市立図書館の開館に伴って、当該施設「ロゴマーク」等のデザインツールに関する制作依頼に応じたものである。

依頼内容は主に、ロゴマーク、利用者カード、利用案内パンフレット、読書イベントチラシの4分野であったが、以下の事業内容(3)に示した企画展示のように、その連携は本科と図書館の持ち味を掛け合わせた魅力ある事業展開へと昇華・発展している。

右：ロゴマーク等デザイン

2 事業内容

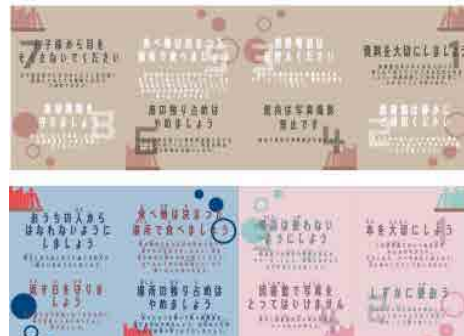
(1) ロゴマークと利用者カード、利用案内パンフレットのデザイン制作



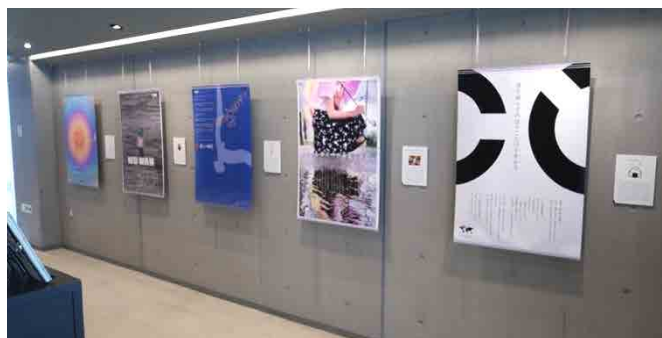
開館の7月1日、採用されたデザインを持つ制作者（上左写真）、利用案内パンフレットデザイン案（上右写真）

(2) 様々なデザイン提案

子ども向け読書イベントや読み聞かせ研修会開催のチラシ制作、利用者マナーカードを作成し、提案させていただいた。実際に採用され、活用されることで生徒の意欲は格段に高まる。



(3) 公共広告ポスターと関連図書による企画展示「高校生からみた現代展」



人権問題や環境問題等、高校生が制作した現代的諸課題に関する公共広告ポスターとともに図書館が所蔵する関連図書を展示し、デザインと図書、双方の観点から課題の理解と解決に光を当てた企画展示である。（令和5年1月24日～3月31日）

青森をアートでたどるプロジェクト 「AOMORI MAPPINK MEMORY 記憶の未来」 (主催：青森県、企画制作：エヌ・アンド・エー株式会社、原高史氏 等)

1 概 要

企画制作者である桑原商店株式会社様と東北芸術工科大学教授で現代美術家の原高史氏が本校を訪れ、原氏が抱く青森県のイメージとピンクという色彩を重ね合わせ、弘南鉄道を舞台とした表現活動を高校生とともにやりたいという協力依頼があった。弘南鉄道は本校通学生の主要な交通手段の一つであり、昨年度から実施の「バズる商品開発」でも関わりがある。加えて、地域資源であるこみせ通りを中心としたインタビュー活動は過去の記憶を表現する手法になると考え、フィールドワークによる効果的な広告表現を目指して3年課題研究の一領域として取り組んだ。

2 事業の様子

(1) オンラインでの打ち合わせ



(2) 取材活動 ※喫茶「蔵」にて



(1) 新型コロナウイルスの流行により外部人材の来校が大きく制限されたが、その反面、授業内でのオンラインによる外部人材の参加等が可能になった。原氏には全6回にわたって活発に生徒と打合せをしていただき、その都度進捗状況を確認しながら事業を進めた。

(3) 制作風景の見学と参加 ※弘前れんが倉庫美術館、弘南鉄道本社



(2) 制作の素材を求めて校外での取材活動に取り組んだ。当初は遠慮がちであったが、徐々に慣れて有益な情報を多数得ることができるようになった。他者との交流の意義も感じているようであった。

(3) 弘前れんが倉庫美術館にて原氏が一般市民にインタビューする様子を見学させていただいた。(左写真)
弘南鉄道本社にて高校生がインタビューを受けた時の様子。(中写真)

(4) 展示作業と公開 ※アート列車は9月14日～11月13日まで毎日運行した。



▲ 引用元：美術手帖 <https://bijutsutecho.com/magazine/news/promotion/26042>

子育て広場「ま～な」キャラクターの制作協力 (連携団体：黒石市子育て支援連絡協議会、事務局：中郷こども園)

1 概 要

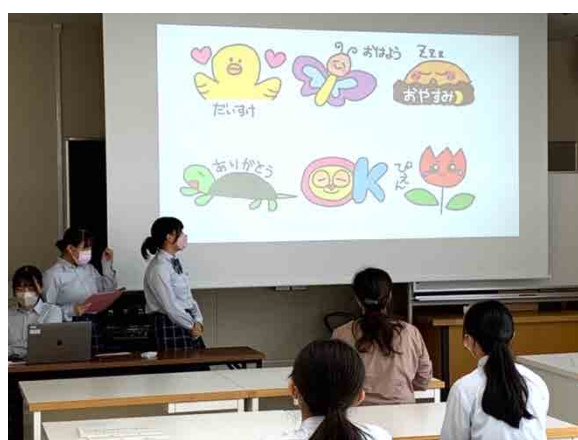
連携団体である「ま～な」とは黒石市の4こども園・保育園による「子育て支援団体」である。2009年から活動しているが、正式なキャラクターを設定し、将来的には情報交換を円滑にするためLINEスタンプに活用する構想があるという。人口減少や少子高齢化の昨今、地域コミュニティにおける「子育て」という分野にデザインにより参画・貢献することの意義は非常に大きく、年度途中からの依頼ではあったが、制作に取り組み2月16日、完成作品を贈呈することができた。

2 制作の様子と実際の作品

(1) 打ち合わせ



(2) プレゼンテーション



(3) 実際の作品と記念写真



上記作品は通信アプリスタンプ用として作成されたデザインの一部。
左から「また来週!」「ねむねむ」「わーい」「ありがとう」の5種類。



【右：記念写真】

採用決定した「ま～な」キャラクター全員集合!」を囲んで依頼者との記念写真。正式なネーミングはこれから決定される。後方には今回採用されなかったデザイン案5作品が並ぶが選定には大分悩まれたそうである。通信アプリでの活用は今後の情報伝達手段として極めて現代的であり、そのことに関わった経験もまた大きい。これを契機に連携団体の情報伝達がデザインを通じて円滑になり、長く愛されるキャラクターであってほしいと願っている。



高校生と考える中南地域ビジネス創出事業 「バズる商品開発」 (連携団体：中南県民局地域連携部)

1 概要

昨年度に引き続き、弘南鉄道沿線にある地域資源と高校生のアイデアを掛け合わせた「バズる商品開発」に取り組んだ。今年度は本校と弘前実業高校に、聖愛高校が新たに加わっての商品開発事業となった。年間を通じて多様な事業者及びデザイナー等の地域プレーヤーからご指導をいただき、地域の魅力を探ること、アイデア出しやネーミングの手法、プロモーションの方法等を学びながらビジネスとデザインの関わりを楽しく学ぶことができた貴重な体験となった。商品はファミリーマートやカブセンター等で3月11日より販売開始される。本事業はこれで終了するが、今後も地域資源を活用した教材開発を主体的に進めていきたい。



上写真：6月9日、弘南鉄道実地研修の様子

下写真：6月27日、中南県民局によるアイデア出しの様子

2 活動の様子と商品紹介



【商品紹介】

- ①販売元：株式会社工藤パン
「りんごパンなのか!!カレーパンなのか!!どっちなんだい!りんごカレーパン!」
- ②販売元：萩原乳業株式会社
「枝豆すぎるプリン」
- ③販売元：ももさわ菓子舗
「ラッセル君 はさんじゃいましたか・・・」

今年度は、パン、プリン、どら焼きというラインナップ。右側は3商品紹介ポスター、左3点は各商品チラシである。

黒石市議会議員一般選挙にかかる PR ポスターの制作 (連携団体：黒石市選挙管理委員会)

1 概 要

選挙権が18歳に引き下げられ、若年層の政治への関心及び参加が一層求められる昨今、黒石高校は校内での期日前投票の実施や期日前投票所でのボランティア選挙事務従事など、積極的に協力してきた経緯がある。一方、地域には投票率低迷の課題があるといい、その課題解決の一助として「若い世代に響くイメージ」をコンセプトに令和5年4月執行の黒石市議会議員一般投票にかかるPRポスターの依頼があった。制作には昨年11月より本科2年生10名が取り組み、2月17日、黒石市長を交えての校内選考会を実施した。結果、3点の作品が採用に至り、ポスターは市内各所に掲示されて選挙への参加を促す役目を果たす。ウィン-ウィンの関係での地域貢献の一例である。

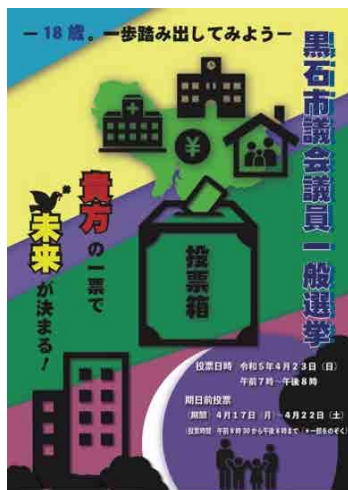
2 選考会の様子と採用作品



写真左から、プレゼンテーションの様子。表彰を受ける採用作品制作者。その内容は地元テレビ局で紹介され、その取り組みは大いに評価された。



制作者10名による記念写真。制作を成し遂げた充実感とプレゼンの緊張からの解放感でホッとした様子で撮影に応える。



依頼内容に応じた作品を制作することはこれまで培ってきた自分の技術を実社会の中で試す絶好の場面であり、加えて大人の前で自分の考えを表明することも貴重な経験である。それら全てが本科での「学び」の全体である。

左作品：採用作品

第1回青森県立黒石高等学校情報デザイン科展 「成功した暁には目を入れよう」

令和5年1月14日（土）、15日（日）／さくら野百貨店弘前店 4F 文化ホール

1 概要

3年間の学びの集大成として「第1回情報デザイン科展」を企画・開催した。本展には在籍する全学科生の作品を展示し、学科の学びについて情報発信するという側面を併せ持つ。今回展は合計600名の来場者を迎え、大盛況かつ好評のうちに終えることができた。

弘前で、尚且つ商業施設で本展を実施する最大の利点は集客力の強さにある。黒石高校は黒石市のみならず周辺地域から通学する生徒も多いことから、さくら野弘前店を会場として選定している。アンケートの抜粋を後掲するが、ここでも「地域」をキーワードとしながら作品展示の全景を紹介する。



第1回展
ポスター ▶



①



②



③



④

- ① 令和3年度事業 「高校生と考える中南地域ビジネス創出事業～バズる商品開発」
- ② 1学年展示 「特別授業・私のスクエアガーデンをつくろう」、「くろいしの文学碑」
- ③ 3学年展示 「第1回全国高校生1億円プロジェクト」成果物展示
- ④ 2学年展示 「教室で出会った文学展」のための文豪キャラクターデザイン
※青森県近代文学館「特別展」令和4年7月16日～9月19日
作家イラストレーション・案内ポスターデザイン協力



- ⑤ 2 学年展示 「キャンピングシェル内外装のデザイン」
- ⑥ 3 学年展示 青森をアートでたどるプロジェクト
「AOMORI MAPPINK MEMORY 高校生による記憶の未来」
- ⑦ 3 学年展示 黒石市立図書館非公式キャラクターの提案
- ⑧ 3 学年展示 「ブランディング」展示風景
- ⑨ 会場展示風景
- ⑩ 会場展示風景 手前「メディアデザイン」展示風景

さくら野文化ホールは黒石商業高校時代から活用してきた展示施設である。広いホールを埋め尽くすことは容易な作業ではないが、アンケートの内容からも分かるように開設から3年間積み重ねてきた本科の実績が十分反映された展覧会であったといえる。これも生徒の努力はもとより、ここまで導いてくださった外部機関の方々との連携の賜物であると心から感謝の意を伝えたい。同時に今後とも本科のデザイン活動により一層のご指導をお願いする次第である。



上写真：展覧会終了後、ポスターに目を入れる生徒実行委員長及びポスター制作者

「第1回情報デザイン科展」アンケートより ※一部抜粋

- 高校生の作品とは思えないほどの出来栄で本当に驚いています。よく頑張っていますね。技術を高めて地域のためになるよう願っています。(50代・女性)
- 学年が上がっていく成長過程がわかり、学習内容が広範囲にわたっていることに驚いた。地域と関わりを持ちながら学習の成果が出せるのはいいことだと思う。(40代・男性)
- 入った瞬間、躍動感、新鮮、技術の高さ、今まであまり触れることがない空間に置かれ心が弾みました。情報過多のこの世の中で一人一人が自分というものをしっかりと持ち、感じるままに素直に表現していて、何か見失っていたものを再起動された、そのような気持ちにさせられました。(60代・女性)
- 作品一つ一つの説明は細部まで書いていてとても興味が湧くものでした。進路を考える中で黒石高校は一つの希望です。高校選びが不安な中、詳しく黒石高校のことを知れてよかったです。(中学生・女性)
- 情報デザイン科に進学した生徒達がこのようなレベルの高い作品を制作していることに驚きました。中学生にも機をとらえて情報デザイン科の活動を紹介したいと思います。今日は素晴らしい作品に触れ、感動させていただきました。ありがとうございました。(中学校教員・男性)
- 初めてこのような作品展を拝見しました。子供がこの学校に入学していなければ見ることも無かったので、本当にデザイン科に入学させて良かったと思います。普段勉強しなければ分からないこともたくさん学んでいるのだなと感心しました。将来に何か役立てることを一生懸命学んでほしいと思います。私もとても勉強になりました。(生徒保護者・女性)
- 学習した成果がしっかり出ている作品ばかりで想像以上に見応えのある内容で驚きました。将来の夢や社会に出てから役立つような技術にしっかり繋がっているものばかりで3年間でこれだけ成長できるのかと感心してしまいました。「絵やデザインが好き」、から将来やビジネスにどう繋がっていくか、私の娘も3年間でしっかり学んでいけたらと思いました。(生徒保護者・女性)
- とても生徒さんの対応が良く、気持ちよく観覧することができました。作品もクオリティが高くてびっくりしました。(40代・女性)
- 学校教育の中で地域の資源を若者のアイデアで盛り上げようとしている試みが素晴らしい。(60代・男性)

※アンケートのご協力、ありがとうございました。

●第1回生から第3回生までの集合写真(2022年12月23日撮影)

